

第 118 回日本消化器病学会九州支部例会

会長 小森 敦正（独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 臨床研究センター）

第 112 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

会長 竹島 史直（長崎県五島中央病院）

合同開催のご案内

会期：令和 3 年 12 月 3 日（金）・4 日（土）

会場：出島メッセ長崎 〒850-0058 長崎県長崎市尾上町 4 番 1 号

テーマ：消化器病診療の明日へー適応と進化ー

■特別講演 1

12 月 3 日（金）

新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの（仮）（内視鏡学会）

演者： 賀来 満夫（東北医科薬科大学医学部 感染症学教室）

司会： 竹島 史直（長崎県五島中央病院）

■特別講演 2

12 月 4 日（土）

胃がん大腸がん臨床試験の Tip（消化器病学会）

演者： 山口 研成（がん研有明病院 消化器化学療法科）

司会： 小森 敦正（独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 臨床研究センター）

■シンポジウム（公募）

1. 肝がん診療の update: 標準化と個別化（消化器病学会／内視鏡学会）

12 月 3 日（金）

司会： 古賀 浩徳（久留米大学 医学部内科学講座消化器内科部門）

三馬 聡（長崎大学病院 消化器内科）

アテゾリズマブ（抗 PD-L1 抗体）・ベバシズマブ（抗 VEGF 抗体）併用療法が根治術不能進行肝細胞癌（HCC）に適応拡大されて、本学会開催時点で 1 年以上が経過する。実臨床では治験と異なり、高齢患者・分子標的治療薬による全身治療歴を有する患者・Child-Pugh score 7 (class B) の患者が多く含まれることが想定され、同治療法のリアルな効果や有害事象について関心が集まっている。一方、免疫治療の効果を低下させる腫瘍因子として、IMbrave150 試験（updated）によりあぶり出された NASH-HCC（non-viral HCC）や、既報が示す beta-catenin 変異 HCC が注目されているが、この治療効果低減は実臨床でも本当に再現されるのか、についての解析も歓迎したい。上記の視点や様々な論点を踏まえ、アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法や既存の分子標的治療の他に、肝動脈化学塞栓療法や肝動注化学療法、放射線療法などの治療法が選択可能な時代にあって、どのような sequential strategy を標準的とすべきか、について議論を深めたい。また、バイオマーカーを駆使した個別化医療の提案にも期待したい。

2. 患者さんに寄り添う IBD 個別化医療を考える（消化器病学会／内視鏡学会）

12 月 3 日（金）

司会： 上村 修司（鹿児島大学病院 消化器内科）

鶴岡ななえ（佐賀大学医学部附属病院 消化器内科）

炎症性腸疾患（IBD）に対する様々な新規治療薬が登場し、臨床的寛解や炎症マーカーの正常値化だけではなく、粘膜治癒が IBD の治療目標となった。そのため、病勢やリスクにあわせた最適な治療法を提供する「個別化医療」が注目されるようになったが、IBD は受験、就職や結婚など人生で重要な問題をかかえる時期に発症することが多く、個々の患者さんの背景を考えた SDM による治療法の選択が必要である。そこで、本シンポジウムで

は、病勢評価のモニタリングに関する取り組みや、既存治療を含めた各薬剤の好適症例の選別や治療の工夫など、IBD 患者さんに寄り添った個別化医療につながるような治療体系の確立についての現状や課題について幅広く演題を募り討論したい。

3. コロナ時代の消化器病診療: 現状と工夫 (消化器病学会／内視鏡学会) 12月4日(土)

司会: 原田 直彦 (独立行政法人国立病院機構九州医療センター 消化器内科)

外間 昭 (琉球大学病院 光学医療診療部)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックにより、世界中の生活、文化、医療は劇的に変化した。とりわけ医療従事者は、自らへの感染を危惧しながら日々懸命な努力を続けている。消化器病診療においては、内視鏡検査での感染防護対策、通常診療や手術の制限や医療経営への影響、ステロイド剤、生物学的製剤や抗がん剤を用いた治療への影響など多くの問題点が指摘されている。また、COVID-19 には多彩な消化器症状、肝障害や虚血性消化管障害が合併することが明らかになり、病態解明と治療協力が求められている。そこで、コロナ時代の消化器病診療の現状と工夫に関する演題を幅広く募集し、コロナ禍を克服すべく議論を深めたい。

4. 消化器がん治療における免疫チェックポイント阻害剤の現状と課題 (消化器病学会／内視鏡学会)

12月4日(土)

司会: 草場 仁志 (九州大学大学院医学研究院連携病態修復内科学)

本田 琢也 (長崎大学病院がん診療センター)

2010 年に進行悪性黒色腫において免疫チェックポイント阻害剤の有効性が海外で示された。本邦では 2014 年に悪性黒色腫に承認されたが、消化器がんにおいては 2017 年に胃癌、その後、大腸を含む MSI-high 固形癌、食道癌、肝癌へと適応が拡大している。late line から front line、さらには補助化学療法への開発も進む中で、本シンポジウムでは、消化器がん治療における免疫チェックポイント阻害剤の実臨床における有効性、安全性、バイオマーカー等の検討から、他の殺細胞薬や分子標的薬を含めた治療の組み立て方、安全対策などを報告して頂き、今後の課題について討論を期待したい。

■ワークショップ (公募)

1. 十二指腸非乳頭部腫瘍診療における課題と治療戦略 (消化器病学会／内視鏡学会) 12月3日(金)

司会: 橋口 慶一 (長崎大学病院 光学医療診療部)

那須雄一郎 (鹿児島市立病院 消化器内科)

これまでガイドラインなどの指針に乏しかった表在型非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍(superficial non-ampullary duodenal epithelial tumor, SNADET)であるが、このほど ESGE からガイドラインが出版され、まもなく本邦でも十二指腸癌診療ガイドラインが出版される見込みである。しかしながら、SNADET に対する内視鏡診断や治療方針についてはまだ課題が残されている。ESD は技術的難易度が非常に高く、標準化するには至っていない。一方で、CSP(cold snare polypectomy)や UEMR(underwater EMR)が徐々に広まりつつあり、保険収載された十二指腸 LECS(腹腔鏡内視鏡合同手術)とともに、治療選択肢は増えている。本セッションでは、UEMR や ESD などの内視鏡治療に拘らず、LECS や外科手術、診断的な演題まで広く募集し、SNADET 診療における問題点について議論したい。家族性大腸腺腫症に随伴する SNADET についての演題も歓迎する。

2. 肝胆膵領域の難治性疾患: 診療の現状と問題点 (消化器病学会／内視鏡学会) 12月3日(金)

司会: 有永 照子 (久留米大学病院 消化器病センター)

日高 匡章 (長崎大学病院 移植・消化器外科)

肝胆膵領域の難治性疾患には、難治性の肝・胆道疾患（8疾患）と難治性の膵疾患（4疾患）がある。これらは厚生労働省の難治性疾患政策研究事業として、診療ガイドラインの作成や全国調査などが継続して行われているが、原因や病態が明らかでない、稀少疾患で経験がないなど様々な要因により、実臨床の場では診断や治療に難渋することもしばしば経験する。これまで支部例会で主題として取り上げられることも少なかった。

そこで本セッションでは、これら難病に対する診療の現状と問題点を明らかにすべく、内科、外科を問わず経験した症例を多くの施設から発表していただき、活発に討論し多くの情報を共有できることを期待したい。

難治性の肝・胆道疾患（8疾患）：自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、バッド・キアリ症候群、特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症、急性肝不全（劇症肝炎）、肝内結石

難治性の膵疾患（4疾患）：急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵嚢胞線維症

3. 胆管・膵管ステンティングの現状と展望（消化器病学会／内視鏡学会） 12月4日(土)

司会： 小澤 栄介（長崎大学病院 消化器内科）

階子 俊平（熊本大学病院 消化器内科）

胆管・膵管ステンティングは様々な胆管・膵管の狭窄・閉塞疾患に対する標準的な治療法として確立され、多くの施設で実施されているが、実際には、対象疾患(良性/悪性)、狭窄部位(肝門部領域胆管/遠位胆管/膵管)、ステントの種類(plastic/metal(cover, uncover))、留置法など、未だ多くの discussion point がある。更には、逆流防止弁付きステントやアンカー付きステントの有効性、EUS 下ドレナージの実際と有効性、胆嚢ステントの有効性と長期予後、術後再建腸管症例における最適なドレナージ法など、近年新たな discussion point も出現している。本ワークショップで、各施設における胆管・膵管ステンティングの実際についてご発表いただき、情報を共有し、治療の最適化を目指したいと考えている。多数の演題登録を期待する。

4. 大腸ポリープの治療戦略（Hot vs Cold）（消化器病学会／内視鏡学会） 12月4日(土)

司会： 西山 仁（独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 消化管内科）

下田 良（佐賀大学医学部附属病院 消化器診療部）

大腸ポリープの治療は、従来の EMR(endoscopic mucosal resection) に加え通電を用いない CSP (cold snare polypectomy) も普及しつつあり、又 UEMR(underwater EMR)等の新しい手技も報告されている。CSP は従来法と比較して合併症の頻度が少ないとされているが抗血栓薬内服下における安全性の報告はまだ少なく、また技術上粘膜下層の組織は殆ど採取できない事、病理学的評価が困難な事等課題もある。UEMR については、その有用性や適応について今後の検討が待たれる。本ワークショップではこれら切除法を比較し、各施設での適応や手技の実際について報告いただきたい。たくさんの演題応募をお待ちしております。

■女性医師の会 特別企画（消化器病学会） 12月3日(金)

ひとりひとりを照らす With コロナ時代のダイバーシティ & インクルージョン

司会： 新垣 伸吾（琉球大学大学院医学研究科 第一内科）

荒井 淳一（長崎大学病院 腫瘍外科）

松島加代子（長崎大学病院 医療教育開発センター／消化器内科）

■消化器病学会九州支部専門医セミナー 12月4日(土)

1. 肝臓 演者： 有尾 啓介（独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター 消化器内科）

2. 胆膵 演者： 佐伯 哲（独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 腫瘍内科）

3. 消化管 演者： 芦塚 伸也（宮崎大学医学部附属病院 消化器内科）

司会：小森 敦正（独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 臨床研究センター）

■一般演題（公募）

12月3日(金)・4日(土)

■専修医発表・研修医発表（公募）

12月3日(金)

※演題は、シンポジウム、ワークショップ、一般演題（口演）、専修医発表、研修医発表を募集します。

※演題登録は、下記支部例会ホームページからのお申込みのみとなります。

※消化器病学会と内視鏡学会では、演題登録画面が異なります。詳細につきましては、支部例会ホームページより演題募集ページをご確認ください（6月下旬頃公開予定）。

演題募集期間：令和3年7月7日（水）正午～8月4日（水）正午

支部例会ホームページ <http://www.congre.co.jp/g118-e112kyushu/>

■お問い合わせ先

第118回日本消化器病学会九州支部例会

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 臨床研究センター

〒856-8562 長崎県大村市久原 2-1001-1 TEL：0957-52-3121 FAX：0957-53-6675

第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

長崎大学病院 光学医療診療部

〒852-8501 長崎県長崎市坂本町 1-7-1 TEL：095-819-7567 FAX：095-819-7489

運営事務局：株式会社コングレ九州支社

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-9-17 福岡天神フコク生命ビル 11階

TEL：092-716-7116 FAX：092-716-7143 E-mail：g118-e112kyushu@congre.co.jp

併設研究会のご案内

第80回九州消化器内視鏡技師研究会

期日：2021年12月4日（土） 9：00～17：00（予定） 【Web開催】

医師世話人：山口 直之（長崎大学病院 消化器内科）

技師世話人：岳下 玄征（長崎大学病院 ME機器センター）

九州消化器内視鏡技師会 会長 平田 敦美

九州消化器内視鏡技師会ホームページ：<http://www.kyusyu-gets.com/>

連絡先：長崎大学病院 ME機器センター 岳下 玄征

〒852-8501 長崎市坂本 1-7-1

TEL:095-819-7863 FAX:095-819-7484

E-mail:h-take@nagasaki-u.ac.jp